

福井・福井城跡

- 1 所在地 福井市宝永三丁目
- 2 調査期間 二〇〇〇年(平12)四月～二〇〇一年六月
- 3 発掘機関 福井市教育委員会
- 4 調査担当者 長谷川健一・田中伸卓
- 5 遺跡の種類 城郭跡
- 6 遺跡の年代 江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(福井)

調査は本誌第二二号・二三号で報告した調査地二の継続調査である。公共施設建設に伴う調査で、一九九七年に開始し、最終的には二〇〇二年六月に終了した。場所は福井城跡の北端中央「舍人門」周辺にあたる。調査面積は約七二〇〇㎡。調査地内の武家屋敷は幾度かの変遷が見られ、築城当初は一軒であったが後に南北二軒に分かれる。木簡のほとんどが北側の

屋敷から出土しているが、木簡②は西側の屋敷境となる水路跡から、木簡⑤⑥は南側の屋敷内の土坑から、木簡⑫⑬は築城期の屋敷内の水路跡から出土している。

8 木簡の釈文・内容

- | | | |
|--------------------|---------------------|------------------|
| S 七—八(ゴミ穴) | (1) 「御手廻 川地源五右衛門」 | 125×30×5 011 |
| (2) | □□□□□ | (147)×(30)×2 081 |
| (3) | □□□□□ | 103×14×2 051 |
| S 一四—一(ゴミ穴) | (4) | (224)×30×1 081 |
| S 一六—五(土坑) | (5) 「卷石不盈尺孤竹不成林雅歳寒」 | 264×111×7 065 |
| (6) 「両人 拭風月妍等知 木斎」 | | 264×96×6 065 |

S
一
六
区

(7) 求く

多木

打木錢

□
鶴

登

☐ 守力

光

外

S一九一—(ゴミ穴)

(8)

	廁
	力

S二〇一二(ゴミ穴)

(9)

S二一四(ゴミ穴)

(10)

・

□	御
□	力
□	北
□	力

•

87×110×31 065

(165) $\times 47 \times 6$ 019

179×12×3 051

260×74×7 011

(11)

久

E

尤

かよく

付志

S二二一六(水路)

(12) 御目待御祈念御札進上御太刀一腰御馬一疋

天槁 ☐ ☐ ☐ 〔鰲鰲力〕

(384) $\times 37 \times 2$ 081

S二八一三(水路)

(13)

<

若 五 郎

(129) $\times (27) \times 3$ 039

S三一一二(コソ穴)

(14)

1111

127×76×9 065

S三一七(ゴミ穴)

(15) 四 $(27) \times (28) \times 0.5$ 081

S三一八(ゴミ穴)

(16) ・「□

於子五□□伝申」

・「^{〔以カ〕}□北出」

105×40×1 011

S三二一五(ゴミ穴)

(17)

「^{〔大外云家堅右輕カ〕}□□□□□□□□□□

□^{〔重カ〕}□^{〔云カ〕}」

195×(30)×3 081

(18) 「稲是

一八月六日□間ニて為是

□任同給□□□□前」

211×36×2 011

(19)

・「^{〔紹カ〕}□□

紬□始」

・「□□

121×47×2 081

(20) 不内座

(72)×(42)×7 081

(21)

「免私即節カ」
□□□□□□

(241)×45×6 081

S三一七(西側屋敷境水路)

(22) □□

(78)×(27)×3 081

S七北一(ゴミ穴)

(23) 「唐織

(147)×60×9 065

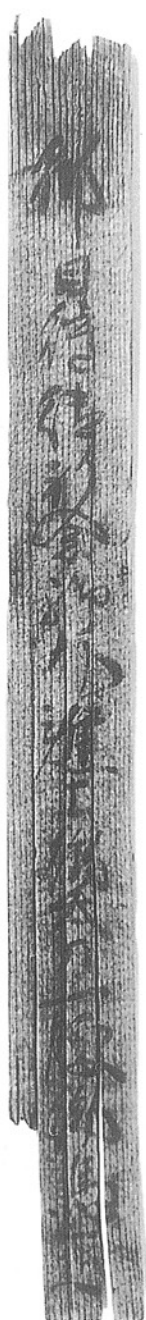
(24) 「□□

237×79×7 011

(1)は福井藩士の役職と氏名と考える。(2)は上方と左側が欠損しており、文字も左側が欠け判読できない。二文字目のつくりは右である。(3)(9)は長方形の下方を尖らせたものであるが、文字は判読できていない。(5)(6)ともに表面に漢詩と思われるもの、裏面に植物の絵が描かれることから、同じ性格のものである。(6)は長方形で、右下を四角に切り欠く。原形は不明だが部材の一部か。(10)は長方形を呈し、上部と下部左右に穴を穿つ。(11)は上下が破損しているが、本来は円盤状を呈し樽などの蓋か底であろう。(12)は長方形を呈し、中央左右に穴を穿つ。裏面は文字が重なっており、習書に使われたものかもしれない。(13)は下方を欠損するが、上部左右に切れ込みの入るものである。人名と考える。(14)は長方形の板で、両面に方形の切り込みを持つ。(15)は二片に割れさらに上下を欠損する、薄い板である。(16)の表面一行目四文字目は手偏の文字である。(17)は上部左側を



(12)



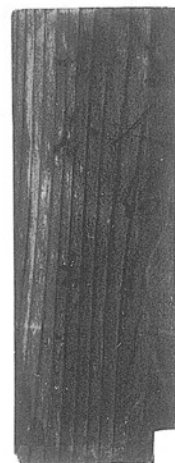
(23)



(1)



(5)



(6)

欠損するが、右に切り込みが入る。(19)の表面二行目二文字目は女偏の文字である。上部右と下部が破損し、左右の二片に割れている。(23)は下部が破損している。左右に比し中央部が盛り上がり「へ」の字状を呈し、下部中央部に方形の穴があけられている。

木簡の釈読については、福井市郷土歴史博物館の足立尚計氏のご協力をいただいた。

(長谷川健二)

石川・畝田・寺中遺跡

- 1 所在地 石川県金沢市畝田西三丁目ほか
- 2 調査期間 二〇〇一年度調査 二〇〇一年(平13)五月～二月
- 3 発掘機関 (財)石川県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 浜崎悟司・岡本恭一・立原秀明・菅野美香子
- 5 遺跡の種類 集落跡(官衙関連遺跡?)
- 6 遺跡の年代 弥生時代～中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



本遺跡は日本海を臨む犀川・大野川河口部の扇状地上に立地する、弥生時代から中世までの複合遺跡である。畝田・寺中遺跡は畝田遺跡・畝田大徳川遺跡の二遺跡と隣接し、調査では三遺跡を便宜上一体の遺跡として扱っている。今年度は三年目にあたる調査となる。

これまでの調査では、奈